

創世記16 創世記9章1節～17節

「ノア契約」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 第3の区分(トルドット)「これはノアの歴史である」
- (2) 契約概念を理解することは極めて重要である。
- (3) これまでの契約

①エデン契約

②アダム契約

2. ノア契約の文脈

- (1) 神は、箱舟を出たノアとその息子たちを祝福された。
- (2) 新しい始まり。人類は、すべてアダムの子孫であり、ノアの子孫である。
- (3) ノアは、第2のアダムとして、全人類の代表として契約を結ぶ。創6：18の成就。
- (4) これはまた、動物界との契約でもある。
- (5) 人間と神とは新しい関係に入った。

①普遍的な洪水はない。

②次に来るのは、火による裁き(Ⅱペテ3：10)である。大患難時代。

2. メッセージのアウトライン

- (1) ノア契約の条項
- (2) ノア契約のしるし
- (3) ノア契約と新しい契約(新約)

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 契約が神と私たちの関係を規定していることを学ぶ。
- (2) 新しい契約の時代に生きていることの意味を学ぶ。

①礼拝に犠牲の動物を持ってくる人はいない。

②私たちは、今はモーセの律法が機能していた時代とは違うことを知っている。

このメッセージは、聖書の契約概念について学ぼうとするものである。

I. ノア契約の条項(9：1～7)

1. 地に満ちよ。

- (1) アダムのようにノアは、人類の代表として立つ。
- (2) エデン契約の条項の確認。創1:28
2. 動物の中に人への恐れを入れた。
 - (1) これは、動物たちを守るためのもの。肉食が始まるから。
 - (2) 人は動物界に権威を持つ。
 - (3) 「地を従えよ」という命令はない。人類の墮落以降、サタンが地の支配者となった。
3. 人間の食事内容が変化した。
 - (1) エデン契約と、アダム契約の下では、人間は菜食主義者であった。
 - (2) これ以降、2つの種類のものが許される。
 - ①動物。
 - * これまでは、動物は衣服、乳製品、犠牲のささげ物として有用。
 - * どの動物を食べてよいかという制限はない。動物にとっては、大変なこと。
 - ②緑の草。
 - * これは、エデン契約とアダム契約の条項の継続である。
4. 肉は血のあるままで食べてはならない。
 - (1) 「肉のいのちは血の中にある」という原則。
 - (2) この規定は、モーセの律法に採用される。
 - * レビ3:17、7:26、27、申12:15、16、20~24
 - (3) 血を飲むことは、悪魔礼拝と関係がある。創6章への応答である。
 - (4) 後に、異邦人クリスチャンに適用される。
 - * 使徒15:29
5. 神の懲罰と人間の懲罰
 - (1) 人間の懲罰：死刑制度の創設。
 - (2) そのためには、人間の政府の存在が前提となる。
 - (3) 「人間による統治の時代」に入った。
 - (4) 次は、創12章から「約束の時代」に入る。
 - ①ノア契約が破られたので、次の契約が結ばれる。
 - ②それがアブラハム契約。

II. ノア契約のしるし(9:8~17)

1. 契約としるしの関係

- (1) 「しるし」は、すべての契約にあるわけではない。
- (2) アブラハム契約では、割礼がしるしとなる(創17:11)。

(3) モーセ契約(シナイ契約)では、安息日がしるしとなる(出31:16、17)。

2. ノア契約のしるしは、虹である。

(1) ノアの洪水以前には、虹は出なかった。

(2) 神は虹を見て、ノア契約を思い出される。

(3) 虹。英語でレインボウ(雨の弓)。

(4) 虹。ヘブル語でケシュット。戦いの弓と同じ。

(5) 神は、戦いの弓を雲の中に置き、それを平和のしるしとされた。

III. ノア契約と新しい契約

1. ユダヤ教のラビたちの教え

(1) ノア契約から、7つの律法を導き出した。

(2) ユダヤ人はモーセの律法により、異邦人はノア契約の7つの律法によって救われる。

①ユダヤ教に改宗する方法以外の救いする方法である。

(3) ノア契約の7つの律法とは

①正義の追求。法廷の設立。社会的正義の追求。

②冒瀆。神の御名の冒瀆。

③偶像礼拝。天体や偶像を拝むこと。

④姦淫。

*姦淫

*近親相姦

*同性愛

*獣姦

⑤殺人(自殺も含む)

⑥盗み

⑦生きたままで動物を食べること。生きた動物から切り取られた肉を食べること。

(4) モーセの律法には、613の律法がある(命令と禁止)。

(5) ノア契約の7つの律法は、より詳細な形で613の律法の中に含まれている。

(6) ユダヤ教の考え方は、業による救いである(業によって祝福を勝ち取る)。

2. 神は私たちが裁きから救う方法を知っておられる。

(1) IIペテ2:5

「また、昔の世界を赦さず、義を宣べ伝えたノアたち八人の者を保護し、不敬虔な世界に洪水を起こされました」

3. 信仰と恵みによる救い

(1) ノアの信仰 ヘブル11:7

「信仰によって、ノアは、まだ見ていない事柄について神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました」

- ①彼は、雨も洪水も見たことがなかった。
 - ②彼の信仰は、箱舟建設によって示され、彼は信仰による義を獲得するものとなった。
 - ③彼の信仰は、世を罪に定めた。
- (2) 出エジプト記の過越の出来事 出12:13

「あなたがたのいる家々の血は、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたの所を通り越そう。わたしがエジプトの地を打つとき、あなたがたには滅びのわざわいは起こらない」

- ①血がしるしとなって、裁きを免れた。
 - ②イスラエルの民の信仰は、血を塗るという行為によって示された。
- (3) 新しい契約 ルカ22:14~20

- ①信仰の内容は異なるが、救われるための原則は同じである。
- ②恵みの時代のテストは、私たちがイエスの十字架を信じるかどうかである。

結論

- 1. 契約が神と私たちの関係を規定している。
- 2. 今私たちは、新しい契約によって恵みに時代に置かれている。
- 3. この時代のテストは、私たちがイエス・キリストの十字架を信じるかどうかである。